

科目名称：	子どもの食と栄養Ⅱ	
担当者名：	井上好美	
区分	授業形態	単位数
専門教育科目	演習	1
授業の目的・テーマ		
前期の栄養と食事に関する基礎的な知識を基に、乳幼児期に必要な食事にまつわる、食べ方や食べさせる方法などを通しての発育発達を理解する。		
授業の達成目標・到達目標		
乳幼児の食の課題が多く、咀嚼、嚥下など観察しながら乳幼児が楽しみに食べてもらえるように、声掛けして励まして、根気よく家庭と保育施設を結ぶ専門知識を身につけ、保護者への支援もできるように		

幼児教育学科	ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	重点項目
DP(1)	自己理解を深め目標に向かって主体的に行動するとともに、多様性を尊重し、子ども・保護者・地域住民との良好な信頼関係を築いていくことができる。	
DP(2)	保育・幼児教育を取り巻く様々な問題に取り組み幅広い教養を身につけるとともに、変化する社会に対応するための協働的な実践力を身につけている。	○
DP(3)	保育・幼児教育の分野において、基礎知識を身につけるとともに、使命感、倫理観、責任感をもって専門的な知識や技能を修得し、これらを柔軟に活用していくことができる。	

評価方法/ディプロマポリシー	定期試験	クイズ 小テスト	提出課題 (レポート含む)	その他	合計
幼児教育DP(1)					0
幼児教育DP(2)		70	30		100
幼児教育DP(3)					0
					100

実務経験のある教員の担当	担当教員の実務経験の内容（内容・経験年数を記載）	
あり	《内容1》 管理栄養士	《経験年数1》 37年
	《内容2》	《経験年数2》
	《内容3》	《経験年数3》
	《内容4》	《経験年数4》

備考
授業内容に応じて、適宜グループワークやディベートを実施する。

評価ルーブリック	すばらしい	とてもよい	よい	要努力
栄養素の長所と短所と食品の理解	特徴を熟知している	理解している	理解がやや劣る	あいまいである
専門用語 語学力	しっかりできている	できている	時々できる	使えていない
発言力	よくできる	できる	時々できる	あまりできていない

授業の内容・計画	事前事後学修の内容	事前事後学修時間(分)
第1回 乳幼児期の授乳と離乳ノ意義 と食生活	母乳の利点を調べてくる	20分
第2回 母乳栄養の留意点と卒乳	自身の卒乳を聞いてくる	20分
第3回 人工乳栄養の昨今と種類 混合栄養とは	育児用ミルクと液体ミルクについて調べてくる	20分
第4回 離乳の必要性和進め方	離乳の段階を調べてくる	20分
第5回 離乳食のDVD 与え方と食育の基本	実習からの感想をノートに書いてくる	20分
第6回 グループワーク 保護者から質問に対して	事前に保護者からの悩みを本から導いてくる	20分
第7回 災害食 電気来ない、水がないときの調理、袋調理実習	災害食について調べてくる	20分
第8回 幼児期の心身の発達と食生活 食行動の特徴	食行動1歳2歳を調べてくる	20分
第9回 幼児期 食生活の問題点と特徴	咀嚼機能について調べてくる	20分
第10回 グループワーク 保護者から質問に対して	10か月～3歳の食問題を調べてくる	30分
第11回 学童期の心身の発達と食生活 六十年前の時と今	欠食率を調べてくる	20分
第12回 集団給食 学校給食と保育給食の利点と課題	嫌いなものが出たらどうするかを考えてくる	20分
第13回 食物アレルギーの昨今 口腔アレルギー	特定食材7品目を調べてくる	20分
第14回 食育のための環境 食を通した保護者への支援	調理のレパートリーに何があるか考えてくる	20分
第15回 ライフステージ別の食育 中高年と高齢者対策	フレイル予防、サルコペニアとは何かを調べてくる	20分

事前事後学修時間については、受講するにあたっての最低限の目安を明記したが、単位取得のためには原則として授業時間と事前事後学修を含め学則第17条の2で規定された学修時間が必要である。また、事前事後学修としては、各回の復習や予習を小レポートにまとめておくこと。

成績評価の方法・基準

定期試験は、実施しない。 その他の評価配分は、以下のとおりである。
小テスト70% レポート30%

課題に対してのフィードバック

グループワーク時において、専門家の意見を含めて学生へフィードバックする。

教科書・参考書

最新 子どもの食と栄養 2022 (授業の中で該当ページを示し使用する)